

日々の田高（地域と連携した防災訓練）

9月1日の防災の日、地域と連携した防災訓練を防災教育の一環として行いました。対象は、1年生で、災害時の適切な行動を理解し、防災意識の向上を図ることを目的として行いました。今年度から、本校単独で実施、田園調布消防署、田園調布消防団、大田区防災危機管理課、NPO法人CONNECT、明治学院大学防災サークルSBC、明治学院大学ボランティアセンターの協力を得て実施しました。

今回の防災訓練は、前半の「避難所運営ゲーム」と後半の「様々な訓練・体験」の2本立てで行いました。

◆避難所運営ゲーム（HUG）◆

避難所運営ゲームは、避難所開設や運営の流れを理解し実践的な対応能力を身につけるために、静岡県危機管理課が開発したものです。生徒6～7人がグループとなり、避難所に来る方々に、校内のどの場所で過ごしてもらうか考え、避難者を表すカードを避難してもらう場所に置いていきます。

地域には、高齢者、乳児・幼児、外国人、妊産婦、障がいのある方など様々な方がいること、様々な要望が寄せられることを疑似体験しました。

避難所運営ゲームの運営にあたり、大田区防災危機管理課、[NPO法人CONNECT](#)、[明治学院大学防災サークルSBC](#)、[明治学院大学ボランティアセンター](#)の皆様には、各教室に入っただき、生徒へのアドバイスをいただきました。SBCの皆様は、能登地方での活動を継続されており、ボランティア活動を始めたきっかけや活動への思いなども話していただきました。



ゲームの説明を聞く生徒



悩みながら避難者のカードを配置



大学生から高校生へのメッセージ

◆様々な訓練・体験◆

後半90分は、体育館とサブアリーナにて、クラスごとの訓練・体験です。

田園調布消防署、田園調布消防団、NPO法人CONNECTに協力をいただきながら、①初期消火訓練、②屋内消火栓を使用した放水訓練、③災害時のトイレの対応、④応急救護訓練、⑤AED訓練から3種類の訓練・体験を行いました。

特に、今回は、サブアリーナにある屋内消火栓を稼働させて生徒が実際に放水する訓練を行いました。各施設において、廊下などに設置してある屋内消火栓ですが、めったに触れることはありません。しかし、実際に火災が発生した際に、使用方法を知っているかどうかは、次の行動に大きく関わります。そこで、田園調布消防署や消防機器のメンテナンスをしてくださっている事業所様、本校経営企画室の多大なるご理解と協力のもと、生徒による放水訓練を実施することができました。本当にありがとうございます。ノズルを持ち放水した生徒、バルブを開け通水した生徒、放水の様子を見た生徒は、本物を見ることの学びを話していました。（訓練に際し、ポンプを動作させることによる貯水槽の水位の挙動について、細かく制御する必要があるという課題も見つかりました。）



消防団・消防署の皆さまにあいさつ



NPO 法人 CONNECT 様による
災害時のトイレに関するレクチャーの様子



AEDの体験 使用方法を確かめる生徒たち



応急救護について体験する生徒



エア方式の疑似消火訓練です。



屋内消火栓を使用した放水訓練。消防署の方の説明後に、ハンドルを回し、通水します。



放水の体験を行います。



生徒対象の訓練が終了した後に、先生たちも放水訓練を行いました。